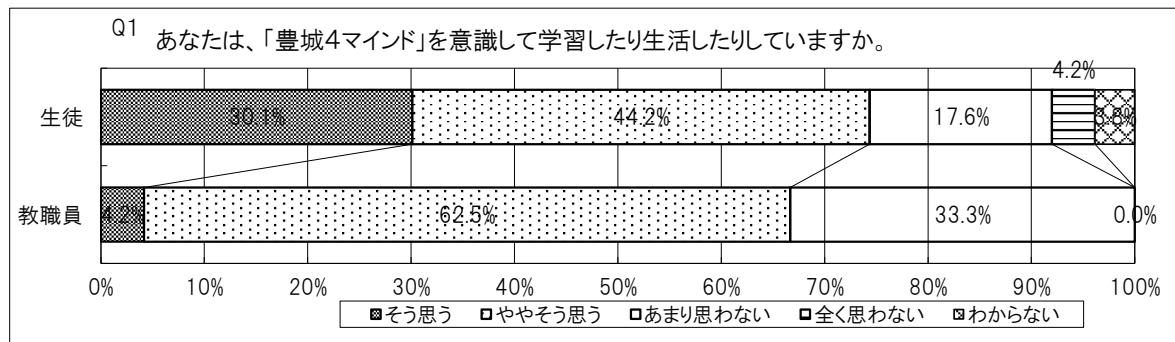
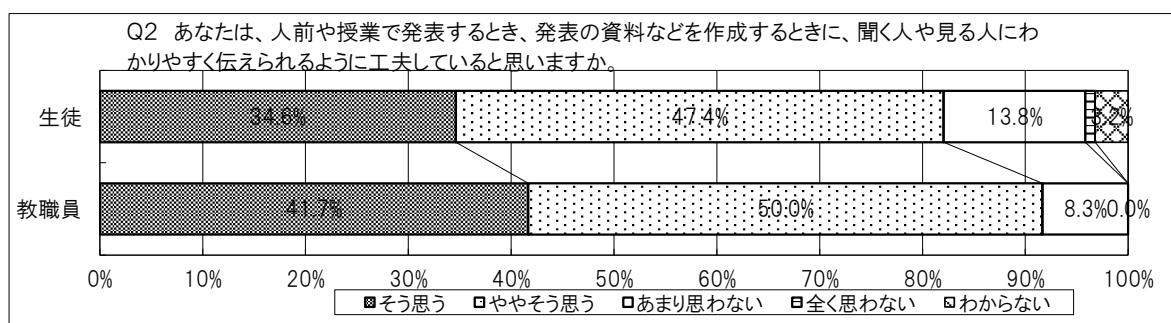


## 令和7年度 7月学校評価について

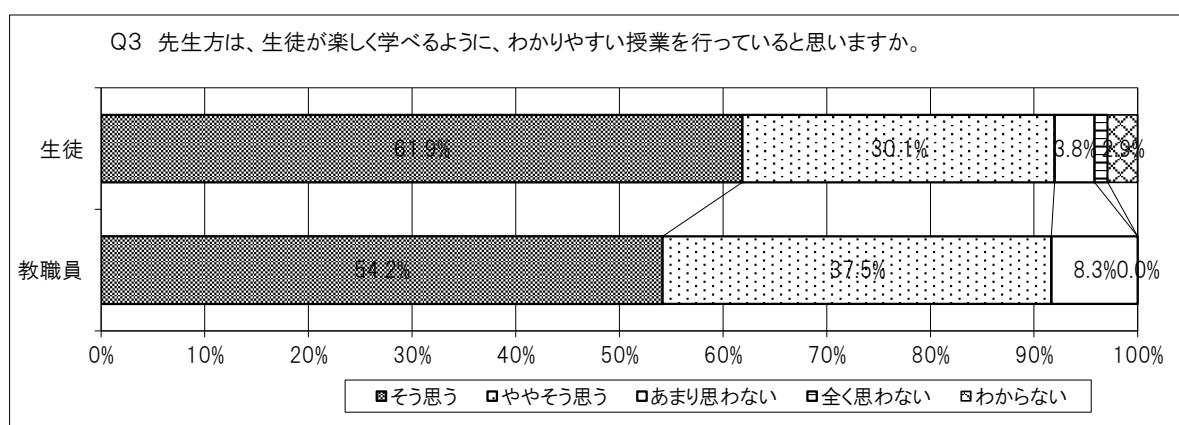
〈全校生徒、教職員アンケート結果〉



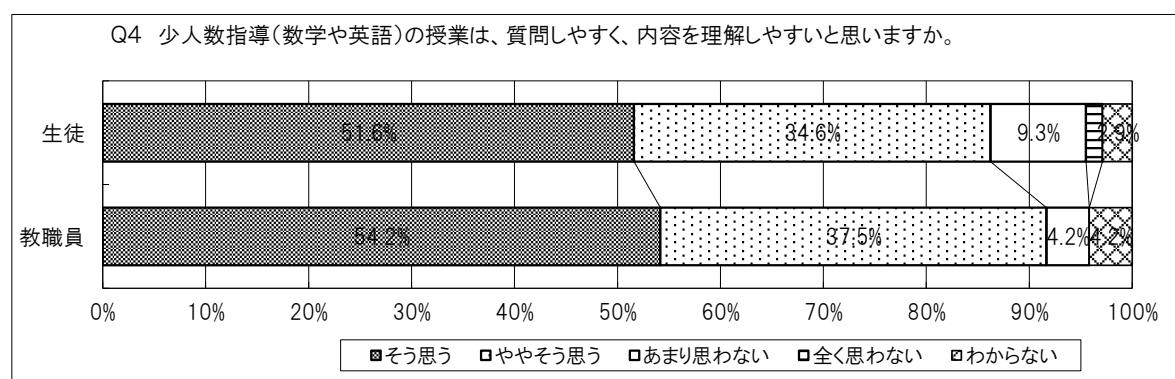
豊城中学校では、学習や行事等において豊城4マインドを意識した振り返りを行うことで、自分を客観視できることを目指しています。7割以上の生徒が意識できている反面、意識できていない生徒も一定数います。今後も継続して、4マインドに日頃から意識を向けられるような声掛けをしていきます。



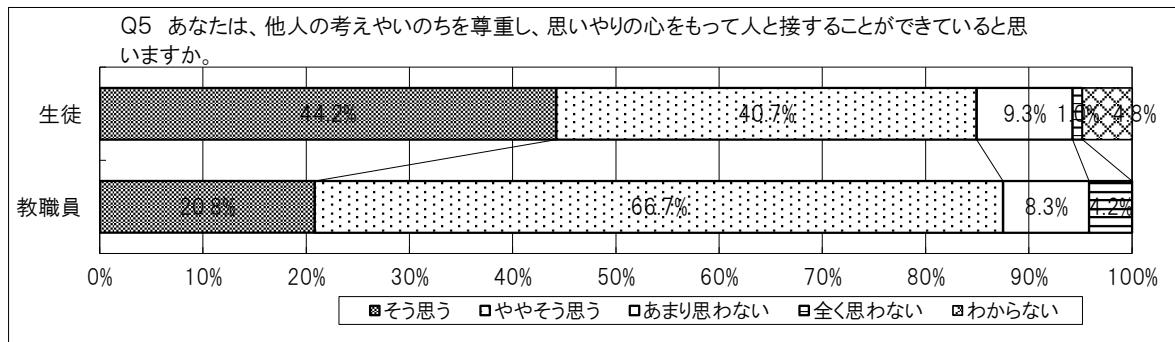
8割以上の生徒が他者を意識して自分の考えを伝えようとし、教職員の9割以上がその姿勢を前向きに評価しています。授業やコ米ケに加え、発表活動の機会や方法を工夫し、伝える力と自信を更に高めていきます。



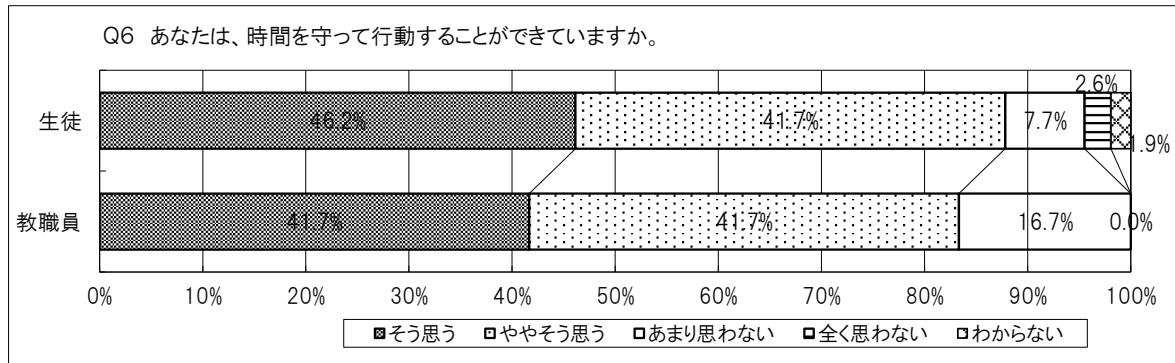
9割以上の生徒と教職員が授業に対して前向きな回答をしています。一方で、約20人に1人の生徒が授業がわかりにくいと感じています。今後も個別支援の充実や指導法の研究を進め、より多くの生徒が理解できる授業づくりを目指していきます。



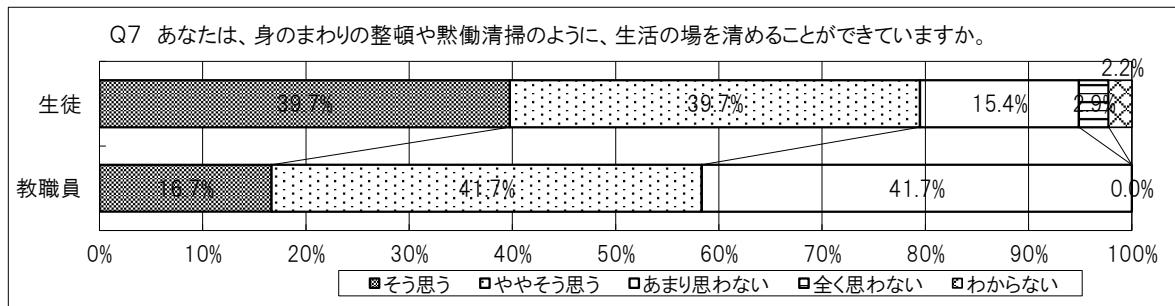
目的別コース選択制の少人数指導も4年目となり、教職員の工夫や経験が積み上げられてきました。8割以上の生徒と9割以上の教職員が前向きに評価する一方で、14%の生徒が理解しにくいと回答しています。今後は、ICTの活用やペア・グループ活動等の工夫を通して、よりわかりやすく楽しい授業づくりを目指していきます。 1



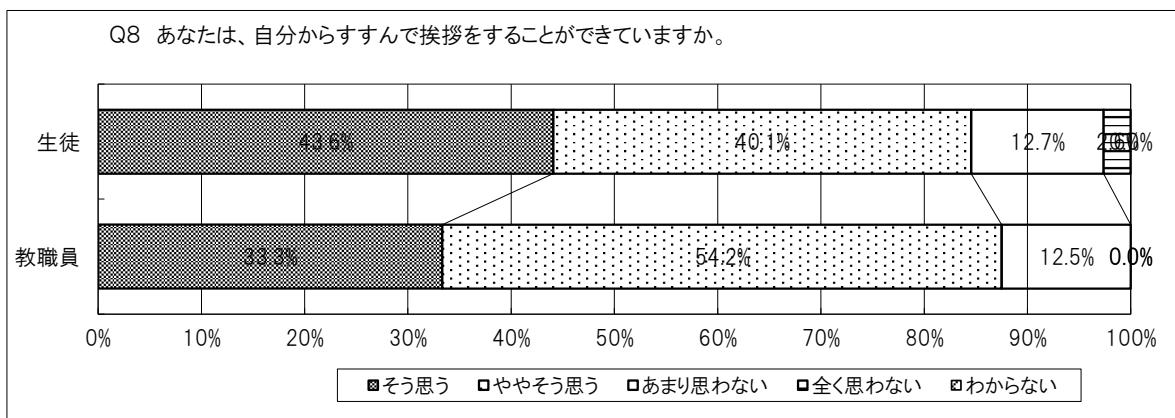
6月に「いのちの集会」を実施し、生徒たちは小さな動物の命とふれ合う貴重な経験をしました。また、道徳の授業では、他者の考え方を尊重し、思いやりの心をもって生活していくことの大切さについて学ぶ場面が多くあります。全ての生徒たちにとって、学校が安心・安全な居場所になるよう、教職員一同努めてまいります。



豊城中の学校生活はノーチャイムが基本とし、時間を意識した行動は校外学習の場(例えば修学旅行)においても生かされ、生徒たちは時間厳守で自主的に行動することができました。将来の自律に向けての重要な要素の一つとして、今後も時間を守る意識を高める声かけを続けていきます。

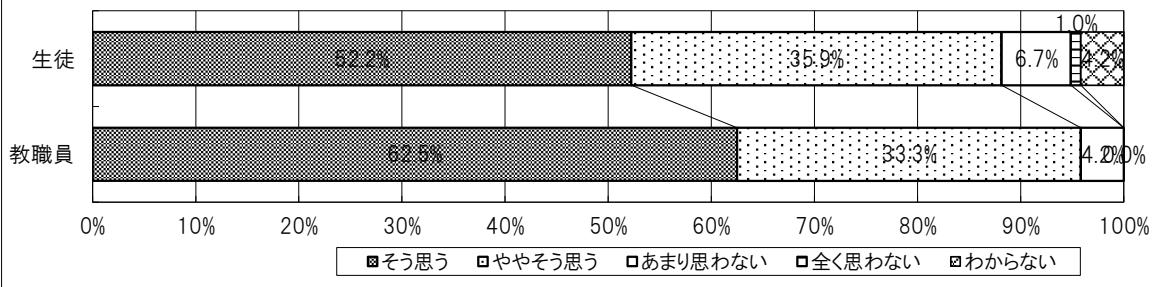


黙働清掃には、「場所をきれいにする」だけではなく、「自分の心を磨く」という目的があります。多くの生徒が自分自身の心と向き合いかながら、もくもくと清掃活動に取り組んでいます。そして、我々教職員が生徒たちに整理整頓や黙働を呼びかけるのであれば、まずは自分たちが率先して行動し、生徒たちの手本になるべきであると考えています。



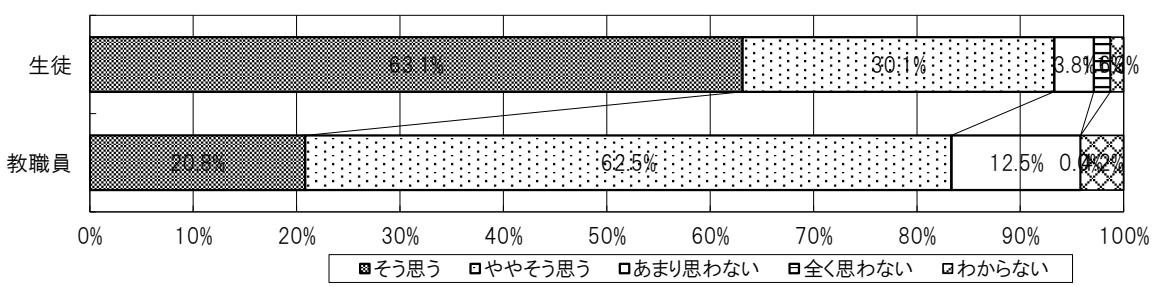
挨拶は、円滑なコミュニケーションのための潤滑剤であり、信頼関係の構築に欠かせません。関連して、本校ではコミュニケーション力の醸成に力を入れています。生徒に対する挨拶も、形式的にならないよう、「おはよう。○○さん」「さようなら。明日も元気に学校に来てね」といった『二言挨拶』を心がけています。

Q9 先生方は、親身になって話を聞いてくれたり、声をかけてくれたりしていますか。



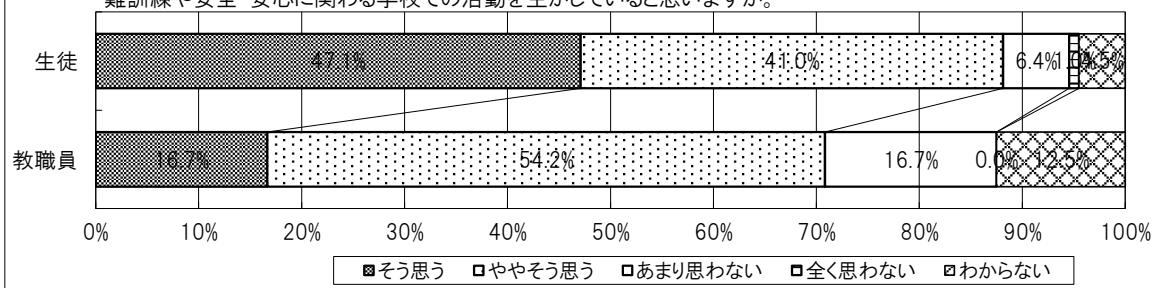
教職員は、生徒たちの少しの心の変化も見逃さないよう、日々気をくばっています。また、家庭との信頼関係づくりも大切にしています。困ったことがあれば、担任や学年主任はもちろん、養護教諭や生活サポート担当、スクールカウンセラー等に遠慮なく相談してください。生徒たちが安心して生活できる学校を目指します。

Q10 あなたは、SNSの利便性だけでなく、問題点や危険性についても理解していますか。



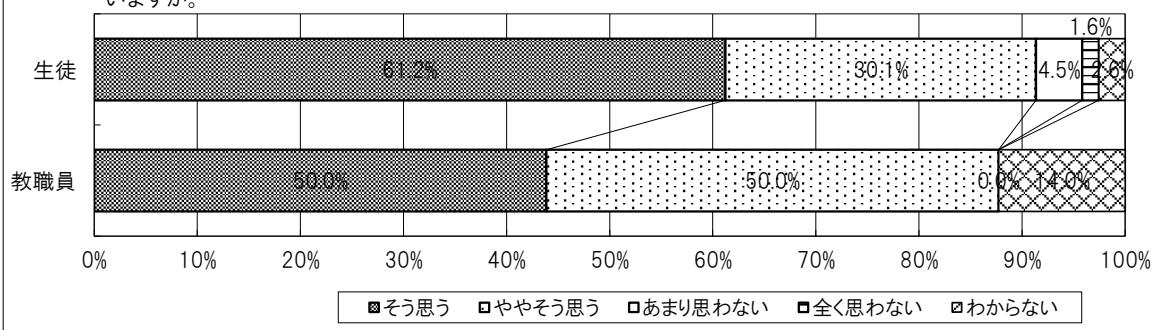
生徒の9割以上、教職員の8割以上がSNS等の危険性を理解していると回答しています。一方で、不安を抱える生徒がいることも事実です。7月のスマート・ネット安全講座に加え、道徳等の授業でも情報モラル教育を進めています。学校とご家庭とが連携することで、更に安心して使える力を育んでいきたいと思います。

Q11 あなたは、自分だけでなく他人のいのちを守るために、避難訓練や安全・安心に関わる学校での活動を生かしていると思いますか。



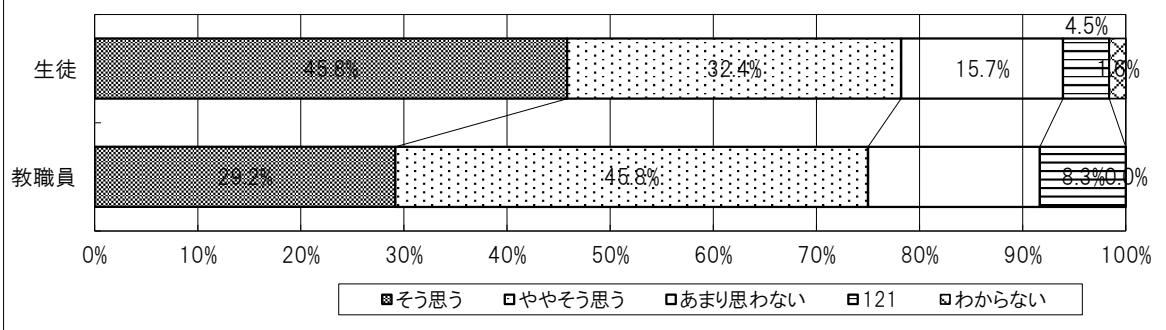
多くの生徒が、「助けられる側ではなく、助ける側になりたい」と考えており、すばらしいと感じます。有事の際に、自分自身の命を最優先に守りつつ、地域や社会の一員として適切な行動がとれるよう、今後もさまざまなケースを想定した訓練を繰り返し実施していくと考えています。

Q12 先生方は、LTノートや個別面談、ふだんの会話などで、生徒のことを理解しようとしていると思いますか。



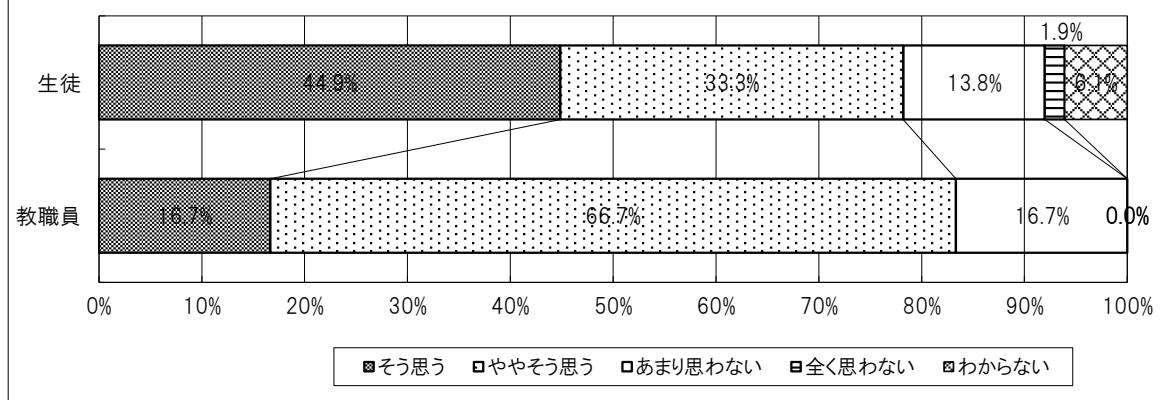
多くの生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。ただ、自分の思いを発信することが苦手な生徒の「声にできないSOS」をキヤッタするためには、ふだんからアンテナを高くしてお必要があります。LTノートや生活アンケート、相談週間の個人面談の時間等を活用して、「一人を救う」対応を心がけます。

Q13 タブレット端末を使うことで、生活や学習が便利になったと思いますか。



生徒・教職員の約8割がタブレット端末の利便性を感じています。今後は、調べ学習や意見共有、振り返り活動などへの活用を広げ、学びの質を高めることを目指します。ご家庭でも使い方のルールや情報モラルについて話題にしていただけると幸いです。

Q14 あなたは、物事に興味や関心を抱き、今年の4月頃と比べて自分から学びたいという気持ちが強くなっていると思いますか。



8割近い生徒が興味や関心をもって学習に取り組めています。今後は、生徒の「学びたい」という気持ちを継続して高めていくように、生徒自身が課題を見つけ、学び方を選べるよう、探究的な活動や振り返りの時間について更に研究を進めていきます。

保護者の皆様からいただいた記述によるご意見等は、今後に生かしてまいります。ありがとうございました。